

平成31年1月15日

南の風第85回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会

～ 女子決勝特集号パートⅡ ～

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

2Qのスタートです。トヨタは12番馬に代わって33番ステファニー、15番安間に代わって23番山本です。あとの3人は変わりません。一方のJXは12番吉田が1番藤岡に代わり、33番梅沢に代わって25番石原でスタートします。11番岡本、10番渡嘉敷、52番宮澤は変わりません。

立ち上がりトヨタ0番エプリンの右0°のミドルシュートが決まります。JXはオールアウトで外に広がり、渡嘉敷がなかを攻める形です。1分過ぎたあたりで52番宮澤が外からのドライブインで得点します。このあとJXはセンターライン付近でボールトラップに行きます。23番山本のパスをカットした宮澤は、サイドラインを割る寸前に後ろ向きのまま岡本にパスし、さらに吉田からのパスを受け3Pシュートを決めます。トヨタはたまたまタイムアウトです。このワンプレイでゲームの流れは大きくJXに傾きます。タイムアウト明けJXは相手のシュートミスからの速攻で吉田から渡嘉敷のループパスが通り得点します。(吉田→渡嘉敷のホットライン)《トヨタ21対JX31》10点差とします。

この間トヨタのシュート精度が落ち(JXのオフェンスミスもあったが付け込めない)攻め切れません。ここまでトヨタの3Pシュートは1本も決まっていません。

このあと吉田&渡嘉敷のピック&ロールからのシュートが決まります。何とか打開したいトヨタは、長岡&三好のピック&ロールから長岡がドライブしますが、渡嘉敷のシュートブロックにつかまります。JXはそのまま速攻に移り、藤岡のドライブからのパスで渡嘉敷がランニングシュートを決めます。

トヨタは苦渋の2回目のタイムアウトを取ります。《トヨタ21対JX36》

タイムアウトのあと、JXは1-2-1-1のゾーンプレスからパスカットしゴール下のシュートを沈めます。その後も速攻から右のミドルポストでボールを受けた渡嘉敷が、逆サイドの0°の藤岡へパスを通しミドルシュートのアシストをします。《トヨタ21対JX40》この間(3分以上トヨタは得点がありません。)

なんとか意地を見せたいトヨタは、長岡に代わってコートに立った33番ステファニーがローポストのターンシュートを決めます。JXは攻撃の手を緩めず速攻からオールアウトで中を空け、藤岡からのパスに宮澤が合わせ、ドライブで切れ込み得点します。さらに藤岡と渡嘉敷のピック&ロールから藤岡のドライブイン(惜しくもシュートは落ちました)など、JXのオフェンスの流れは止まりません。トヨタは何とか流れを戻そうと、キックアウトして外へ合わせたり、ピック&ロールから外に合わせたりして3Pシュートを試みますが、ことごとくリングに嫌われ得点することができません。単発でエプリンがジャンプシュートを決めますが、中々連続得点に至りません。また、ディフェンスをゾーンにしたりマンツーマンに変えたりして目先を変えますが、宮澤のポストでのターンからのステップインシュートを決められ思うようになりません。残り時間2分25秒でトヨタはエプリンと三好のピック&ロールから三好のドライブインシュートが決まります。このあとミドルポストでのエプリンがフックシュートを沈め連続得点となります。ここでJXはタイムアウトを請求します。相手の連続得点の流れを変える意図があったものと思います。タイムアウト明け吉田を投入します。慎重にゲームを進めます。